



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2
43-0468(福田)
42-2462(鈴木)

毎週日曜日発行

お問合せは上記へ

保険行政と日本の伝統食

メタボ症候群を予防するために

国保連協の
研修会から

県国民健康保険運営協議会の研修が8月29日に水戸でおなわれました。研修内容は、保険制度が大きく変わるなかでの特定健診と保健指導の今後について、およびメタボリック症候群にならないための食生活のあり方でした。

防・改善については、ひたちなか市で30年前からクッキング・スクールを開く根本悦子氏が講演。日本人の腸は長いいため、植物繊維の多い食材でカロリーを摂取することが基本で、そこに適度なタンパク質や微量栄養素分を多々含む日本の豊かな野菜を取り合わせて食

べることの大切さが強調されました。現在の日本人の食生活の変化を踏まえながら、日本の伝統色や行事食の長所を科学的に解明するお話でした。

後半は、今後の保険行政の動向の紹介でした。国の医療費適正化対策として、生活習慣病の予防が重要視されており、各自治体の各
国保運営においても健診制度の充実が求められる、という内容でした。

「食生活からの地道な啓蒙が大切なことはいまでもありません。そのためには、出回っている食材の安全性や今の労働のあり方など、



知られざる憲法草案の史実

日本国憲法の成立前夜を描いた映画『日本の青空』の上映会があり、会場となった日立市民会館には同市内外から約400人が集まりました。鑑賞後のロビーでは、思いを語り合ったり、感想文をつづる人の姿がたくさん見られました。上の写真はそのひとこまです。

ある観客の一人は、「現在の憲法は外国から押しつけられたものだと言

われるが、それでも“いいものはいい”と思ってきた。ところが、じつは憲法の草案は、かつての自由民権運動などをふまえ、気骨ある日本の学者たちによって提出されたものであることが描かれていました。いままでも知らなかった史実です。私たちの日本人の勇氣と英知、そして憲法にいつかの誇りを感じさせてくれる映画でした」と感想を語ってくれました。

女性議員5人が最近の活動や思いを述べた後、さっそく参加している諸団体からの情報提供を基礎に活発な意見交換となりました。

今回は、環境問題として中郷地区の商圏拡大にともなう問題や里根川河畔の桜並木の整備、福祉について

新校名は「磯原郷英高校」

来春、磯原高校と北茨城高校が統合して誕生する新校の名称が「磯原郷英高校」と決まりました。郷土に根ざした高校として優秀な人が育ってほしいという願い

が込められています。

校舎は現在の磯高を利用し、定員240名(6クラス)の普通科・単位制の高校としてスタートします。

2・3年次には、福祉系や地場産業とむすびついた観光系の科目が用意されるとのことです。

女性連盟主催 女性議員を囲む会

北茨城市女性連盟主催で第3回となる「女性議員を囲む会」が8月26日に開かれ、約80名が参加しました。

主催者あいさつでは、6月の総会時に上映された映画『ヘアテの贈りもの』で描かれていた女性参政権の獲得があつて今このように集まりがもてるのが改めて強調されました。

は子育てへの父親参加や父子家庭への行政支援のあり方、そして「手をつなぐ親の会」運営の「グループホームアーシャ」の紹介、地域の活性化では大津港の物産館や平潟の主水屋敷の今後などが話題になりました。

9月議会から始まる一般質問での一問一答方式につ

いても話され、10、11日の質問日にぜひ傍聴をと呼びかけられました。

「参加なさった皆さんはさまざまなボランティアなどにたずさわり、住みよい街をつくるために自分たちの活動と市行政とのいい関係を模索していることも強く感じさせていただきました。意見交換・勉強を重ね、その積極さに応えていきたいと思えます」(鈴木康子)

人間らしい暮らしのために根本的などころで国の政策転換が求められます。

健診や予防に力を入れるためにも、国はその財政の裏付けを出す必要があります。各自治体の保険行政のやりくりだけで解決させようとする今の方向では、一方的に住民と自治体に財政負担を押しつけることになりかねません」と党市議団では語っています。

ご相談はお気軽に



市議会議員
鈴木やす子
☎42-2462



市議会議員
福田 明
☎43-0468

「北茨城民報」はインターネットでもご覧いただけます。
<http://www.jcp-ktib.com/>

編集部では身近な情報をお待ちしています。